

研究主題 通常学級における、多様な子供たち一人一人に応じた一斉授業の指導方法の工夫 ～若手教員が知識・技能として身に付けるべき教育技術についての研究～

I 団体の概要

東京都小学校教育技術・指導法研究会は令和5年4月1日に発足した研究会である。東京都小学校における教師に求められる資質能力である「教育の技術及び指導方法」に関する事項の向上を目指し、研究の交流と振興を図ることを目的とする。

II 研究の目的

令和4年度に文部科学省が実施した「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する調査」によると、学習面または行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒数の割合は、小中学校において推定8.8%であった。また、そのうち校内委員会で特別な教育的支援が必要と判断されている割合は、推定28.7%である。これを受けて文部科学省は、「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」（令和5年3月13日）を公表し、すべての教師が、障害のある児童生徒を含め多様な児童生徒が通常の学級に在籍していることを前提に、高い学習成果が得られるよう分かりやすい授業づくりを進め、通常の学級で安全・安心に学ぶことができるよう、多様性を尊重した学級経営を行うことを求めている。

本会では、これらの報告を踏まえ、昨年度「支援を要する児童」に限定して「指導の個別化」の視点から研究を行った。その成果を基に、本年度は「学習の個性化」にも焦点を当て、児童一人一人に応じた最適な学びを実現する授業づくりを追究する。すなわち、「指導の個別化」と「学習の個性化」の両輪に「教育技術」の観点から、全ての児童が安心して学べる分かりやすい授業の創造を目的とする。

III 研究の方法

(1) 研究授業

授業者の教育技術を可視化し、協議を通して「多様な児童に届く一斉授業」の在り方を追究する。

(2) 研修会・講演会

谷和樹教授をはじめ、研究会の内外の実践者から教育技術を学ぶ。

(3) 地区別学習会（支部会）

支部ごとの実践共有・模擬授業・レポート検討を通して、会員が所属する地域の教員の成長を支援する。



IV 研究の内容（実践の柱）

(1) 全員を活動させる授業の基本（谷和樹教授）

「挙手指名をやめる」「作業指示をする」「確認をする」「指名をする」など、授業構成の明確化によって全員が参加できる環境をつくる。スピード感とチェックポイントを意識することで、授業に集中と流れが生まれる。

(2) “はてな”を引き出す社会科授業（向山行雄先生）

社会的事象の提示から「なぜ?」「どうして?」という問いを立ち上げる導入を設計し、児童の追究意欲を喚起する。「教える」よりも「気付かせる」発問を通して、主体的・対話的で深い学びを実現する。

(3) 多様な児童が安心して参加できる授業設計（小嶋悠紀先生・桑原和彦先生・竹岡正和先生）

発達特性に応じた「安全な関わり方」と「動きながら学ぶ」仕掛けを重視し、身体・感情・学習の安定を図る。ペアや小グループの入れ替え、活動のゲーム化などにより、支援を必要とする児童も自然に参加できる場をつくる。



V 実践事例

事例1：社会科「くらしを支える食料生産」（武蔵野市立第三小・吉田知寛先生）

児童が自分の「？」をもつ導入づくりを重視。「米は東京でも作られているのか？」など意外性のある問いを提示し、調べ・比較・交流を通して思考を深める。AIチャットを活用して多様な意見を集約し、再考する学習構造を構築した。

事例2：体育科「全員が安心して動ける授業」（桑原和彦先生）

距離の取り方を体験的に学ぶ「ビブス・ムーブメント」などを実施。ぶつからない間隔を身体で覚える活動を通して、発達特性のある児童の安心感と集中を保障した。

事例3：国語科「伝え合う楽しさを引き出す授業」（竹岡正和先生）

少人数ペアでの意見交換や「一語選択ゲーム」を通して、言葉に苦手意識のある児童も自然に発言できる環境をつくった。思考の多様性を評価するルーブリックを導入し、自己効力感を高めた。

事例4：特別支援教育と学級経営（小嶋悠紀先生）

パニック時に真正面から圧をかけず、横から静かに近づく支援法を実演。「先生が手伝う？自分でやる？」と選ばせることで、児童の自立的行動を促す成功体験を積ませた。

事例5：ICTを活用した外国語授業デザイン（竹内淑香先生）

研修会で学んだ発問・指示・板書の技術を授業に取り入れ、全員が参加できる一斉授業を実現した。個に応じた声かけとテンポのある授業構成によって、つまずきのある児童も学習に集中し、自信をもって取り組める環境をつくった。



VI 年間計画

日時	活動内容
5月28日(水)	○会員総会・第1回研修会 講演「全ての子供の頭がフル回転する授業における教育技術」 講師 玉川大学教職大学院 教授 谷 和樹 先生
6月19日(木)	○研究授業1 授業者 主任教諭 吉田 知寛 先生 講師 全国連合小学校校長会顧問 向山 行雄 先生
7月25日(金)	○東京都教職員研修センター主催 専門性向上研修 「模擬授業体験を基に、授業デザインを考えよう～一人1台の学習者用端末を用いて～」 講師 主任教諭 竹内 淑香 先生
8月27日(水)	○第2回研修会 講演「特別支援教育と体育科における、多様な子供たち一人一人に応じた一斉授業の指導法の工夫」 講師 (株)RIDGE SPECIAL EDUCATION WORKS 代表 小嶋 悠紀 先生 茨城県公立小学校教員 桑原 和彦 先生 東京大学大学院 教育学研究科 学校高度化専攻 教職開発コース 竹岡 正和 先生
9月13日(土)	○第3回研修会 「若手教師の“こんなとき何をすれば?”に応える教育技術研修会」 講師 東京都小学校教育技術・指導方法研究会 役員
12月20日(土)	○第4回研修会 「1年間を笑顔で締めくろう 笑顔生まれる授業・楽しいクラスイベント」 講師 東京都小学校教育技術・指導方法研究会 役員
1月16日(金)	○第5回研修会 講演「国語科における全員を巻き込む一斉指導の教育技術」 講師 教授法創造研究所代表 椿原 正和 先生
1月20日(火)	○研究授業2 授業者 教諭 小川 大河 先生 講師 教授法創造研究所代表 椿原 正和 先生
3月27日(金)	○第6回研修会 新学期最初の三日間の教育技術 講師 東京都小学校教育技術・指導方法研究会 役員

＜令和7年度連絡先＞

団体名		東京都小学校教育技術・指導方法研究会	
代表者	所属	立川市立第七小学校	
	職 氏名	校長 島村 雄次郎	
	連絡先	042-523-5348	
事務局	所属	練馬区立立野小学校	
	職 氏名	副校長 木村 順子	
	連絡先	03-3920-9101	
団体ホームページ	URL	https://www.toshogiken.com/	二次元コード